

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	碓田 猛真
医 長	中原 啓
医 員	宝上 竜也
非常勤医員	野村 直孝
診療局参与	榎本 雅夫
言語聴覚士	間 三千夫
言語聴覚士	佐々木 美奈
医療事務作業補助員	萬野 まさみ

—概要—

当科の常勤医師は碓田猛真部長、中原啓医長、宝上竜也医師、野村直孝医師の4名である。榎本雅夫参与は引き続き月1回の勤務で外来を担当した。また2015年度より佐々木美奈が常勤の言語聴覚士として耳鼻咽喉科に配属され、間三千夫と合わせて常勤ST2名体制となった。

当科は複数の耳鼻咽喉科医が常勤している施設として大阪府下最南端であり、地域におけるEnd-Hospitalとしての役割を担う責任を負っている。

外来は週5日とも2診体制である。特殊外来として水曜日午後(第4週を除く)に超音波外来を開設し、頸部のECHO検査および細胞診を行っている。主に甲状腺疾患が中心だが、唾液腺疾患や頭頸部癌患者のfollowも行っている。

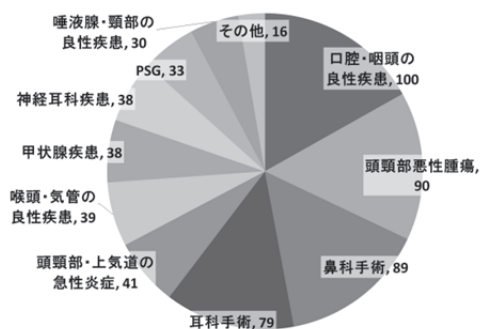
開設当初より我々は南泉州地域の頭頸部癌診療拠点を目指して活動している。「がん薬物療法専門医」である碓田を中心に放射線化学療法を主体とした臓器温存型の治療や再発癌に対するsecond-lineの化学療法を行い良好な成績を得ている一方で、進行癌に対する拡大手術にも対応している。

引き続き日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設に指定されている。また大阪府耳鼻咽喉科医会の要請を受け耳鼻咽喉科二次後送病院ローテーションに参加し、耳鼻科疾患の時間外二次救急患者受入に対応している。実際に搬送されるのは年に数件だが、泉州医療圏の後送施設は限られており地域医療における重責を負っている。更に泉佐野泉南耳鼻咽喉科医会と連携し、土曜日や時間外の救急患者受け入れも行っている。

—実績—

2015年4月から2016年3月までの新規入院患者数は593名。平均在院日数は11.1日、1日当たりの平均入院患者数は17.3名であった。入院患者の疾患別内訳は、口腔・咽頭の良性疾患:16.9%、頭頸部悪性腫瘍:15.2%、鼻科手術:15.0%、耳科手術:13.3%、頭頸部・上気道の急性炎症:6.9%、喉頭・気管の良性疾患:6.6%、甲状腺疾患(悪性腫瘍、副甲状腺を含む):6.4%、神経耳科疾患:6.4%、PSG:5.6%、唾液腺・頸部の良性疾患:5.1%、その他:2.7%である。

入院患者内訳



同期間の外来患者延べ数は16,490名、1日平均外来患者数は68.1名であった。うち初診は平均9.1名で13.4%、初診患者に占める院外紹介患者の割合は35.3%であった。

過去5年間の総手術件数は、鼓室形成術:248側、人工内耳植込手術:53側、内視鏡下副鼻腔手術:577側である。2015年度の手術実績を下記に示す。当科は耳科手術、鼻科手術の割合が高い。これは府下でも有数の実績であり、人工内耳植込術、内視鏡下副鼻腔手術V型の各施設基準を満たしている。一方で頭頸部癌に対しては放射線化学療法を主体とした治療を行っているため癌手術はやや少ない傾向にある。

手術実績(2015.4～2016.3)

耳科手術	
鼓室形成術・鼓膜形成術	48
外耳道形成術・造設	5
顔面神経減圧手術	3
人工内耳埋込手術	16
耳瘻孔摘出術	10
鼓膜切開術	75
鼓膜チューブ挿入術	55
その他	11
小 計	223
鼻科手術	
内視鏡下副鼻腔手術	119
鼻中隔矯正術	53
鼻甲介切除術・粘膜下鼻甲介切除術	84
鼻茸切除術	15
鼻腔粘膜焼灼術	53
鼻骨骨折整復術	7
その他	6
小 計	337
口腔咽喉頭手術	
口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術	132
口腔・咽頭膿瘍切開術	22
軟口蓋形成術	3
唾石摘出術	4
直達鏡下喉頭微細手術	63
喉頭形成手術	7
喉頭截開術	1
舌口腔咽頭良性腫瘍手術	32
小 計	264
頭頸部手術	
甲状腺良性疾患手術	22
耳下腺良性疾患手術	8
顎下腺良性疾患手術	8
頸部良性腫瘍手術	17
気管切開術	12
嚥下改善手術	1
リンパ節摘出術	20
頸部膿瘍手術	10
頭頸部形成外科手術	7
小 計	105
悪性腫瘍手術	
聴器悪性腫瘍手術	0
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	3
口腔中咽頭悪性腫瘍手術	4
喉頭下咽頭悪性腫瘍手術	3
甲状腺悪性腫瘍手術	22
唾液腺悪性腫瘍手術	2
頸部郭清術	7
その他	3
小 計	44
耳鼻咽喉異物摘出術	54
その他	31
小 計	85
総 計	1,058

—今年度の成果と反省点—

言語聴覚士2名体制を整えたことに伴い、これまでの聴覚言語外来を発展させ2015年10月より「聴覚・言語支援センター」を発足させた。補聴器適合や人工内耳はもちろん小児難聴のfollow、音声言語障害などを扱っている。また発達障害児の訓練も行っており、吃音や機能性疾患も積極的に受け入れている。補聴器は患者手持ちの機器の調整も可能であり、人工内耳は国内で承認されている3社全ての機種に対応している。いずれも個々の患者さんの診療が長時間に及ぶため完全予約制としているが、診療が早朝から夕刻に及ぶこともあり更なる体制の拡充が課題である。

—来年度への抱負—

これまで睡眠時無呼吸に対しては携帯型簡易検査を行ってきたが、本年度より本格的にPSG(睡眠ポリグラフ)を導入し更に詳細な評価が可能になった。今後は睡眠時無呼吸外来の開設に向けて体制を整備していく方針である。